

II 2012（平成24）年度「FD研修会」実施報告

1. 実施概要

■日時： 2012（平成24）年6月28日（木） 16：50～18：30

■場所： 京都ノートルダム女子大学 ユニソン会館 大会議室

■内容：

◇第1部（40分間 30分講義 10分質疑応答）

発表者：生活福祉文化学部 生活福祉文化学科 山本 智也 教授

タイトル：「学生への成績評価のフィードバックの一例」（資料：P.79～81）

概要：発表者が担当している「教育学」において実施している形成テストとそのフィードバックを中心に、成績評価のあり方とフィードバックの具体的な方法などについて紹介する。

◇第2部（50分間 シンポジウム形式 各発表7分 個別討論5分）

発表者：人間文化学部人間文化学科 服部 昭郎 教授

心理学部 神月 紀輔 准教授

人間文化学部英語英文学科 小山 哲春 准教授

生活福祉文化学部 畠山 寛 准教授

タイトル：「平成23年度オープンクラス実施教員による発表」

概要：授業内容や授業方法の質の向上を図ることを目的に、今後のオープンクラスの実施内容を検討する。

平成24年度は今まで開催していた他大学の教員を招聘して開催する「FD講演会」とは異なり、本学における授業方法の課題を検討し、改善するため、本学教員による全学的な「FD研修会」を実施した。

第1部は、山本智也教授（生活福祉文化学部）による講演で、「学生への成績評価のフィードバックの一例」と題し、山本教授が担当している「教育学」の授業で実施されている形成テスト、成績評価とフィードバックの具体的な方法について紹介された。

第2部は、服部昭郎教授（人間文化学科）、神月紀輔准教授（心理学部）、小山哲春准教授（英語英文学科）、畠山寛准教授（生活福祉文化学部）の4名による「平成23年度オープンクラス（後期）実施教員による発表」が行われ、2011（平成23）年度に実施したオープンクラスの長所や短所、実施後の授業改善点などについて報告が行われた。その後、オープンクラスを参観した教員からの報告があり、最後に参加者全員によるディスカッションが行われた。

■出席者数：

出席者	人間文化学部		生活福祉文化学部	心理学部	各センター	現員数	教員参加率	職員（その他）
	英語英文	人間文化						
49	6	9	14	16	4	69	71.7%	11

2. 今後の課題と展望

本学では、これまで3年間にわたって他大学の教員によるFD講演会を実施してきた。しかし、参加者からは「実際の授業のデモンストレーションをして欲しい」、「画期的な工夫をしている教員から具体的な内容を聞きたい」といった講演内容を改善する意見が出されていた。そこで、2012（平成24）年度は本学教員による講演と発表を行い、参加者全員が授業内容や方法の改善の取り組みを考える研修会を実施した。研修会の参加率は71.7%（専任教員69名中49名）と昨年度よりも少し下回っているが、参加者の7割以上が「研修会は有意義であった」とアンケートに回答している。

参加者アンケートによると、第1部の研修内容に関しては、「具体的な発表で非常に参考になった」、「学生にとっては力がつくと感じた」、「形成テストは検討したい」、「評価をフィードバックする大切さを感じた」などの感想が出された。また、第2部の

研修内容に関しては、「授業をする立場、聴く立場からの意見は参考になった」、「具体的なツールや教材の紹介がありよかった」、「全体で何を話すのか決めておくと焦点が絞られてよかった」、「発表時間が短く、オープンクラスの概要の説明は必要である」などの意見が出された。

今後のFD講演会や研修会の内容としては、「他大学におけるFD活動の事例報告」や「複数のパネリストによる意見交換」が必要であるといった意見が出された。さらに、今後必要だと思われるFD活動については、「FD研修会（学習論、授業法、講義法、討論法、学業評価法、教育機器利用法、などのセミナー）」や「学内教員中心のFD研修会」が必要であるといった意見が出された。来年度も引き続き全学的なFD研修会を開催し、新たに分科会を複数開催し、教員の教育力向上につながる取り組みを行う必要がある。

文責：矢島 雅子（生活福祉文化学部 FD委員）